

事後評価結果（平成27年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課
担当課長名：谷村 昌史

事業名	一般国道241号・242号 <small>あしよろ</small> 足寄道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自： <small>ほっかいどうあしよろ あしよろ きた じょう ちようめ</small> 北海道足寄郡足寄町北6条1丁目 至： <small>ほっかいどうあしよろ あしよろ みなみ じょう ちようめ</small> 北海道足寄郡足寄町南7条1丁目	延長	2.4 km		

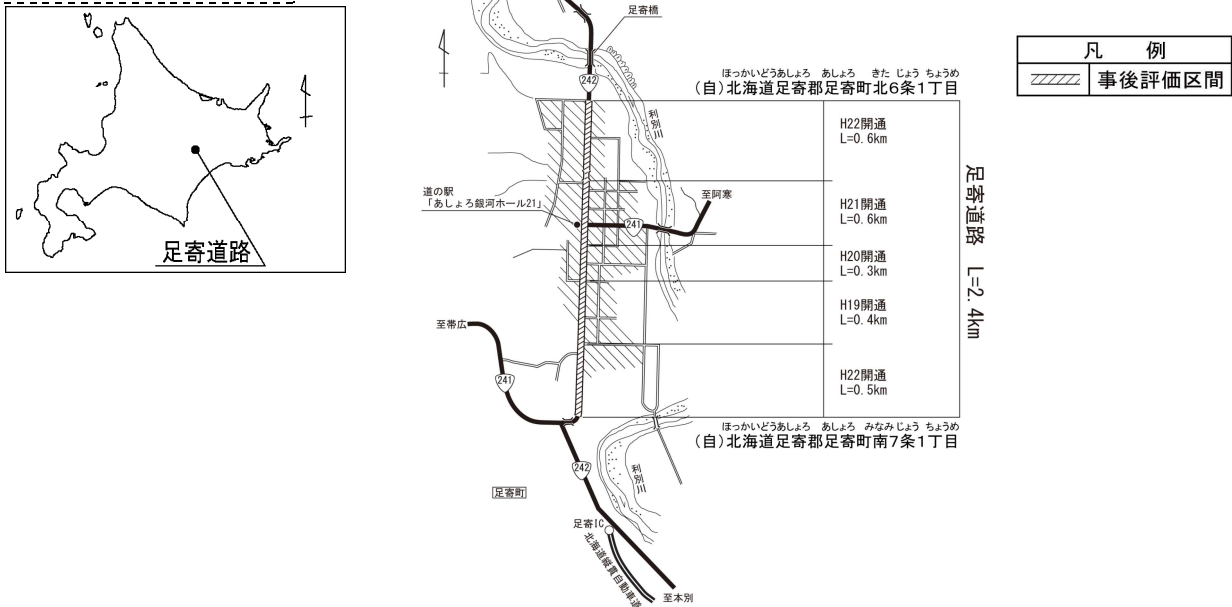
事業概要

国道241号は、弟子屈町を起点とし、帯広市に至る延長約151kmの幹線道路である。国道242号は、網走市を起点とし、帯広市に至る延長185kmの幹線道路である。
足寄道路は、足寄町北6条1丁目から足寄町南6条1丁目に至る延長2.4kmの2車線拡幅事業である。

事業の目的・必要性

足寄道路は、足寄市街における交通混雑の低減を図り、地域の活性化等の支援をするとともに、道路交通の定時性、安全性の向上を目的とした事業である。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H13年度 都市計画決定 一年度	用地着手	H17年度 工事着手	供用年	(当初) H18年度/— (実績) H22年度/—	変動	1.2倍	
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) —/ (実質値) —/	47億円 41億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) —/ (実質値) —/	46億円 41億円	変動	1.0倍	
	交通量	計画時 (現道241号)	10,350 台/日		実績 (当該路線)	8,646 台/日		変動	84%	
	旅行速度向上	18.3 → 27.3 km/h (開通前現道→当該路線) (開通前年次) H17年 (開通後年次) H22年		交通事故減少		64.5 → 12.7 件/億台km (開通前現道→当該路線) (開通前年次) H16~H18年平均値 (開通後年次) H23~H25年平均値				
	費用対効果 分析結果 (当初)	B/C	1.8		総費用	47億円 (事業費: 38億円 維持管理費: 8.9億円)		総便益	87億円 (走行時間短縮便益: 84億円 走行経費減少便益: 1.6億円 交通事故減少便益: 0.66億円)	基準年
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.6		総費用	67億円 (事業費: 55億円 維持管理費: 12億円)		総便益	109億円 (走行時間短縮便益: 101億円 走行経費減少便益: 7.9億円 交通事故減少便益: 0.21億円)	基準年	平成27年
事業遅延によるコスト増		費用増加額		— 8.2 億円		便益減少額		20.4 億円		
事業遅延の理由										

本事業は、平成13年度に事業化し、平成18年度に工事着手した。
当初、平成18年度の完成を目指していたが、用地取得に時間を要したため、事業完了が平成22年度になった。

客観的評価指標に対応する事後評価項目

事業の整備効果

- ①交通混雑の緩和
 - ・交通混雑が緩和され、主要渋滞ポイントが解消されるなど、足寄市街地内の定時性の確保や利便性が向上。
- ②バスの利便性向上
 - ・交通混雑が緩和され、帯広市から陸別町間を運行する路線バスの燃費が1割向上したほか、定時性や待合環境も良くなるなど、バスの利便性が向上。
- ③道路交通の安全性向上
 - ・死傷事故件数が約8割減少。特に追突事故が減少したほか、死亡事故などの重大事故が無くなるなど、道路交通の安全性が向上。
- ④歩行者の安全性向上
 - ・歩道幅員が広くなり、歩道幅員が狭くこれまで通学路の指定できなかった約1.3kmの区間を含めた、当該道路2.4kmの全区間が通学路に指定されるなど、歩行者の安全性が向上。
- ⑤主要な観光地への利便性向上
 - ・交通混雑が緩和し主要な観光地への利便性向上が図られたほか、道の駅の入り込み客数が約13万人増加し、売上高は約5400万円増加。
- ⑥沿線地域の活性化に寄与
 - ・公共施設の建設や商業施設の建て替え及び新規参入が約20箇所で行われたほか、イベントの集客数が約2倍に増加。
- ⑦救急搬送の速達性及び安定性向上。
 - ・交通混雑が緩和され、足寄国民健康保険病院までの搬送時間が約2分短縮されるなど、救急搬送の速達性及び安定性が向上。
- ⑧道路の景観向上
 - ・0.5km電線の地中化やセットバック、計12本の信号・照明・標識の統合、約180箇所の植栽柵の整備などが実現し、道路の景観が向上。

その他評価すべきと判断した項目

特になし

事業に環境変

環境影響評価に対応する項目

環境影響評価の対象外事業である。

その他評価すべきと判断した項目

特になし

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された事後評価結果準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 人口・産業等の社会経済情勢の変化 (対象地域：足寄町)
 - ・人口は、事業化当時約8.9千人(H12)→開通後7.4千人(H27)となっている。
(国勢調査及び住民基本台帳人口)
 - ・農業産出額は、約68億円(S60)→約89億円(H18)となっている。
(北海道農林水産統計年報)
 - ・建設業従業者数は、事業化当時約733千人(H13)→開通後約346千人(H24)となっている。
(事業所・企業統計調査、経済センサス)

今後の事後評価及び改善措置の必要性

足寄道路の整備により、足寄市街における交通混雑の低減、地域の活性化等の支援、道路交通の定時性、安全性の向上など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものと考えられる。

なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

同種事業の計画・調査のあり方についての、見直しを必要とする事項は見られなかった。また、事業評価手法について、見直しの必要性はないと思われる。

特記事項

特になし

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。